

## 神奈川県立津久井支援学校 学校運営協議会 開催結果

本校の学校運営協議会を次のとおり開催しました。

会議名称	令和7年度 津久井支援学校 第1回 学校運営協議会
開催日時	令和7年5月27日(火)9時30分~11時30分
開催場所	神奈川県立津久井支援学校 3階 会議室
出席	学校運営協議会委員8名 事務局9名
会議資料	<ul style="list-style-type: none"><li>・学校運営の基本方針</li><li>・学校運営協議会運営要綱</li><li>・令和7年度 学校運営協議会委員及び事務局職員名簿</li><li>・令和7年度 学校運営協議会運営計画</li><li>・津久井支援学校グランドデザイン</li><li>・学校教育計画(令和6年度～令和9年度)</li><li>・令和6年度 学校評価実施結果</li><li>・令和7年度 学校評価目標設定</li><li>・神奈川県立学校のコミュニティ・スクール(令和6年4月)</li><li>・学校案内</li><li>・つくいだより 4月号</li><li>・津久井支援学校 相模湖公園花植えのおさそい</li><li>・津久井支援学校 通学支援員募集チラシ</li></ul>
議事録	<p>1 開会 (1) 校長あいさつ 日頃より本校の教育活動にご理解ご協力を賜っているところである。昨年度の課題を踏まえ、今年度の教育方針や地域との協働について協力いただくと共に、皆さんにご意見を頂戴する。限られた時間であるが、よろしくお願ひしたい。</p> <p>(2) 委員自己紹介 (3) 会長選出 (4) 令和7年度 学校運営協議会運営計画について 事務局から説明 神奈川県立学校のコミュニティ・スクールの資料をもとに、学校運営協議会の役割、本日の会議の目的等、会長から補足説明がされた。</p> <p>2 学校運営の基本方針等について 次の4つの視点に沿って、校長から説明 ①人づくりは職員間のより良い関係作りから ②本校の『働き方改革』 ③学校のDXの推進による教育の充実 ④この学校でよかったと思える学校に</p>

### 3 学校評価

#### (1) 令和6年度 実施結果

副校長から報告

#### (2) 令和7年度 目標設定

- ①教育課程・学習指導
- ②児童・生徒指導・支援
- ③進路指導・支援
- ④地域との協働
- ⑤学校管理・運営

5つの視点について、目標及び具体的な方策を総括教諭から説明

#### (3) 質疑 ※○=質疑 ●=回答 ◎=意見・感想

○昨年度の課題を受けて、今年度に重点を置いたところはどこか。

●一人一台端末を一人でどう使うかから、協働した学びを進めるツールとして使用できるように発展させたい。進路指導・支援においては、進路選択に向け、小学部、中学部と学びを積み上げていく視点に重点を置いている。

○学習指導における「みんなやってみたい」の具体策は?

●校内研究において、地域をテーマに協働した学びを取り上げている。取組の中で、ICT機器を活用しながら、子どもたちの興味関心を拡大できるよう授業改善を進めていく。訪問の生徒が、病院からリアルタイムで授業場面を共有できている。

○児童・生徒指導・支援の内容、家庭状況の課題等が複雑になってきており、最近は子どもの自死が増えている。このことについて、どのように支援していくか。

●個別教育計画の策定において、日ごろの生活の様子も含め、ていねいに状況を引き出し、児童・生徒とも目標を共有していく。児童生徒が抱える難しい課題については、学部の教員と共有し、専門職、管理職が加わることで担任が抱え込まないような体制づくりをおこなう。

○個別教育計画に、本人の思いや願いを反映する仕組みとある。具体的にどのようにするのか。

●個別教育計画の作成において非常に大切なことは、実態把握である。教員の実態把握の力を向上させるとともに、目標のみでなく、実態、現状の課題を共有することが重要と考えている。

○進路指導・支援において、「働く体験をしよう」という取組があるが、どのようなところを呼んでいるのか。企業も参加しているのか。

●校内実習で実習資材を提供いただいている福祉事業所の方に、実際に仕事を教えていただいた。生徒の実態や事業の目的に応じて、企業の方にも協力を要請することを考えたい。

○特別支援学級の交流会に参加している。また、居住地交流で児童を迎えるにあたり、車いすを使用している児童と一緒に何ができるのか、児童が活動を考え工夫することで考え方を深めた。とても良い機会だった。

○働き方改革を進めるにあたり、どのような工夫をしたのか。

●小規模校でも分掌する校務は他の学校と同じである。昨年度までは、係を細分化していたが、業務をまとめ再配分した。複数の業務を複数の職員で分掌し、引継ぎや人材育成ができるよう組織を改編した。

## 6 協議

### 【ICT機器の活用について】

- ◎ICT機器活用の取組が進んでおり、最近は書く場面が少なくなっている。そのような中でも、実習日誌は紙であり、書くことも大切な教育であることを知った。ICT機器は、グループワークや話すことが苦手な人、聴覚障害の人等、支援機器の一面もある。
- ◎子どもたちの方が、ICT機器の操作に長けている。地域の小学校合同行事の打合せを、ICT機器を使用することで、別々の場所で、リアルタイムで調べたことを共有し、話し合い等を進めている。ICT機器は便利でゲーム性があることから楽しい反面、休み時間の外遊び等が減っているように感じる。
- ◎学生にとって、スマートフォンが最も身近なICT機器であることから、クリック入力に長けているが、キーボード入力が苦手な学生も多い現状がある。
- ◎生徒の学習として、簡単な動画づくりが考えられる。学校紹介の動画づくり等を考えてみてほしい。
- 生成AIの活用はしているか。生成AIを使用することで、特性に応じた支援になるか。
- 昨年度の職員研修で生成AIの使い方を取り上げた。児童・生徒の調べ学習ではメリットが多い。検索サイトを使用すると、問い合わせで多くの答えが提示されるが、生成AIでは、ある程度絞った答を提示してもらえることが、児童・生徒にとってわかりやすい。また、職員の業務にも有効である。

### 【販売をとおした教育活動について】

- 作業班の製品や喫茶班のサービスについて、販売活動の予定はあるか。
- 昨年度、作業班の発表日に、活動紹介に加え販売もしたが、模擬貨幣を使用したやり取りであった。今年度は、PTAの協力を得て、現金でやり取りができるように準備を進めている。
- 自分たちが作ったものが商品化されることは、うれしいことである。学校ができる枠組みの中で、子どもたちに体験させたい。製造加工だけではなく、接客等サービスも仕事となる。様々な特性に応じた仕事を一緒に考えたい。
- 販売やサービスを提供する場面として、PTAの活動日が考えられる。

### 【その他】

- ◎地域の特産物を題材に、地域資源を活用した取組が進んでいる。ICT機器を活用し、地域の特産物の紹介動画を作る活動もできるのではないか。
- ◎美術の授業を視察した。本日のねらいとして、「紙の素材や色に注目して額を作ろう」と表記されていた。育てたい資質能力を押さえたねらいを設定し、授業を展開していることがよいと感じた。
- 進路指導・支援において、小学部から将来を見据えた支援・指導とは、具体的にどのようなことか。
- 小学部は、自分の身の回りのことを自分ですることや、気持ちを伝えることに始まり、クラスの係活動に取り組んでいる。また、今年度は、中・高対象の働く体験学習に、小学部も参加できるようにしていく。
- 本人の思い、願いをどのように個別教育計画に反映させていく構想は?
- 個別面談に本人が同席することで、思いを直接共有する機会を設定する。あわせて、本人の希望を職員間で共有する時間設定をする。
- 「一人ひとりのニーズに応じた活動の場を設定する」という考えが社会に広がってきている。福祉も、学校も、一人ひとりのニーズにどのように応えていくか、検討する必要がある。

**【協議のまとめ】**

- ・令和7年度 学校運営の基本方針 承認
- ・令和7年度 学校評価 目標設定 承認

**7 部会の取り組みについて**

- ①切れ目ない支援部会
- ②防災部会

活動目的、活動内容等について総括教諭から説明

**8 閉会**

**(1) 校長あいさつ**

本校の取組を地域に発信していきたい。本日、いただいた意見を、学校運営及び今年度の取組に反映したい。

**(2) 事務連絡**

- ・6月10日実施 相模湖公園花植えについて
- ・通学支援員の募集について
- ・次回の開催は、10月14日（火）

以上